

「家庭の教育力を育てるPTA活動」 ～PTA主催インターンシップ事業を通して～

◎ はじめに

家庭は子どもたちに生活する力をつける場である。中でも、働くことの尊さが分かり、進んで働く子どもを育てることも家庭の役割のひとつと考えている。しかし、現在の日本の子どもたちは、昔の子どもほど手伝いをせず、海外の子どもと比較しても特に少ないと言われている。そのため、働くという体験が不足しており、感謝されることや、感謝の気持ちを表すことなど、社会での人間関係に必要なコミュニケーションを実際に体験する機会に恵まれていない。

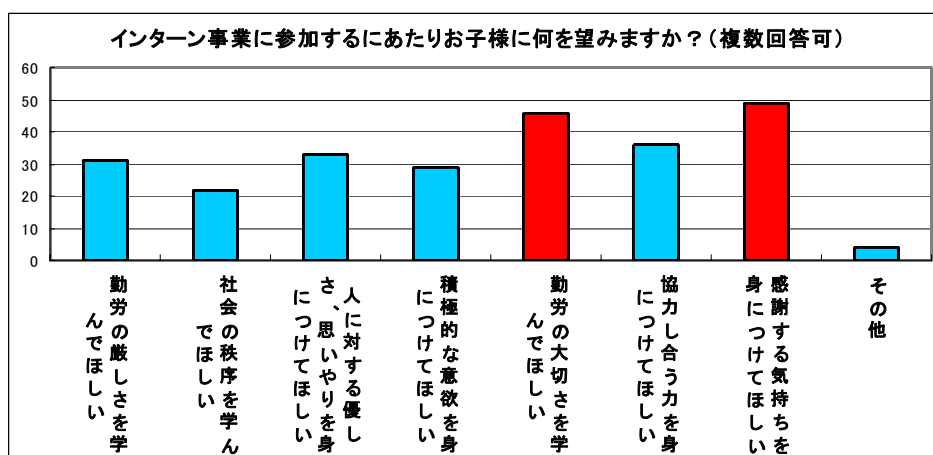
1 インターンシップ事業の必要性

(1) 児童の実態から（本校児童の課題）

本校PTAでは、全校の保護者に対して児童の生活実態を知るためにアンケート調査を行った。内容は、基本的な生活習慣・家庭学習・手伝いに関するものである。その結果、基本的な生活習慣や家庭学習については、概ね良好な結果が得られた。家庭の役割のひとつとしての「基本的な生活習慣を育てる」については、恵まれた状況にあると言える。しかし、手伝いにおいては、本校児童の約30%が全くしていないという回答があった。また、決められた手伝いがあるかどうかという項目では、半数の児童が決められた手伝いがないと答えている。このことから、手伝いについての課題があることが明らかになった。

(2) 保護者の実態調査から（保護者がインターンシップ事業に期待すること）

本校では、平成11年度より、地域の事業所へ協力を依頼し、5・6年児童が職場で労働体験するインターンシップ事業を行っている。



【グラフ1】

グラフ1から勤労の大切さや感謝する気持ちを学んでほしいと考える保護者が多いことがわかる。このことから、インターンシップ事業の意義について再確認した。

(3) インターンシップ事業の意義

子どもたちに労働体験をさせることは価値あることとわかっているにもかかわらず、実際に個

人で家庭外での労働体験をさせることは困難である。そこで、本校PTAでは、インターンシップ事業の拡大に取り組んできた。このインターンシップ事業は、家庭教育の一環である「働く力」を育てる実体験をする場である。子どもたちに社会での労働体験をさせることは、様々な仕事の社会的役割を理解したり、労働の大切さや厳しさを学び、自立性や社会性を養うことで家庭や役割を子ども自身が見つかることができると考える。

2 インターンシップ事業の概要

(1) 事前準備

- 本部役員及び運営委員による実行委員会の発足（6月1日）
- 5・6年生への予備調査（6月4日～）
- 各事業所への電話による協力依頼及び依頼文の郵送
- 5・6年生への希望調査（第1・第2・第3希望）（6月12日～）
- 子どもの店舗・事業所の割り振りの調整（6月18日～）
- インターノート、注意事項、名札等の作成（6月21日～）
- 事前説明会準備

(2) 事前説明会

- 保護者対象説明会（6月28日 13:15～ コミュニティ室にて
PTA例会授業参観前に実施）
 - ・注意事項説明
 - ・事業所毎の責任者決め
- 児童対象説明会（7月6日 13:15～ 体育館にて）
 - ・心構え
 - ・注意事項
 - ・宣誓書の書き方

(3) 保護者同伴の事業所訪問（7月7日～22日）

- ・宣誓書持参の事前挨拶

(4) 本年度のインターンシップ事業の実際（7月24日・25日）

【協力いただいた事業所】

- 【福祉関係】 ・ナーシングケア宗像 ・デイサービスあしたば
 - ・真愛保育園
 - ・市立福間保育所
 - ・市立大和保育所
 - ・市立東福間保育所
 - ・サンテラス福間
- 【公共施設】 ・市立図書館 ・ふれあい広場ふくま
 - ・九州大学大学院生物資源科学附属水産実験所
- 【スーパーマーケット】 ・スーパー川食 ・鮮ど市場
- 【パン・お菓子】 ・金の小槌 ・キャトルQ ・さかえ屋
 - ・いしむら萬盛堂古賀店
- 【レストラン】 ・喫茶サン
- 【スポーツ関係】 ・宗像ゴルフセンター ・Vスポーツ ・海の家遊俱樂部
- 【ガソリンスタンド】 ・うかいや 【美容室】 ・ルポ



【いしむら萬盛堂】



【うかいや】



【ふれあい広場ふくま】



【水産実験所】



【ナーシングケア宗像】



【大和保育所】

(5) 事後の作業

- 各事業所へのお礼
 - ・お礼の文書
 - ・インターンシップ事業についてのアンケート
- 児童の感想文・名札
- 子どもの感想文の事業所への送付
- 保護者・児童へのアンケート配付・回収
- 感想文・アンケートの集約及び分析

3 インターンシップ事業の成果と課題

保護者に行ったアンケート調査（グラフ1）には、勤労への意識や感謝の気持ち、社会性、積極的な意欲等を学んでほしいという願いが表れている。

これに対して、体験後の児童アンケートによると、「以前より挨拶などが進んででき

るようになった」「将来の夢、なりたい職業を考えるようになった」「親に感謝の気持ちをもつようになった」などの社会性や労働・感謝などの意識の変容がわかる。また、意識の変化は、体験後の児童の感想にも、勤労のたいへんさ、充実感、事業所への感謝の気持ちとして表れている。

体験後の児童の感想

インターンシップの場所が、ふれあい市場でよかったです。そのわけは、仕事が楽しかったし、店員さんもやさしく、うれしいことがたくさんあったからです。またふれあい市場で働きたいと思います。店員さん、お客さんへの接し方や商品の並べ方など親切に教えてくださり、ありがとうございました。

保護者の感想

一生懸命に仕事をされる障害者の方と1日過ごせたことで、息子の中で何かが変わったと私は感じ、感慨深いものがありました。主人に息子は「パソコン班にいた人たちはすごく楽しかった。パソコンをうっている姿はとても障害があるなんて思えなかった」と報告していました。この時期にインターンシップ事業を体験できたことは、勤労のたいへんさ、感謝の気持ちを学ぶ貴重な機会になったと思います。

事業所からの感想

短時間に言われたことを覚えて実行できる能力の高さに驚かされるばかりです。社会体育で養った力を発揮し、大きな声で挨拶もできていました。子どもたちがこのような体験で少しでも社会勉強できればと、これからも協力していきたいと思っております。

(1) 成果

- インターンシップを通して、労働の厳しさや喜び、将来の職業等について意識付けをすることができたと考えている。
- 挨拶や感謝の気持ちなど多くの子どもたちに家庭での様子の変化が見られました。

(2) 課題

- 他学年を含めた「働く力」を育てる家庭への支援である。この事業をもとに1年生から6年生まで、働くことや手伝いの意義を子どもたちにいかに伝え、働くことへの正しい理解や意欲を持った子どもを各家庭で育てていくために、PTAとしてどのような支援ができるかを探ることが今後の課題といえる。

◎ おわりに

家庭は、教育の原点であり、すべての教育の出発点です。また、私たち保護者は、子どもたちの教育に第一義的な責任を負い、家庭教育の重要性をより認識しなければならない。PTAは、今回のような家庭力向上プランに示す様々な取り組みを行い、学校と家庭・地域の皆さんと連携・協力し、コミュニティ・スクールの良さを活かし、これからも子どもたちの豊かな心を育むよう努力したいと思う。